

## 真鍋博士の予見力

荒野 喆也

今年度のノーベル物理学賞が、真鍋淑郎博士に授与された。テーマは目下人類にとっての最大の課題と言われている地球温暖化問題の解決になくてはならない気候モデルの開発である。博士がこの問題に関心を持ったのは、一九五八年大学院修了後渡米したすぐ後のことである。当時、これらの現象は、一般の人あまり知られておらず、研究している学者もいなかった。博士が、半世紀後の地球温暖化の危機を予測していたとかどうかは別としても将来の為に価値ある研究テーマだと予見していたはずである。

また研究手段として、当時コンピュータ導入期であり、その使用価値も一般化していなかった時代に、気候モデルを構築し、当時のレベルでのコンピュータを使用し、高度に複雑な自然現象に挑戦してきた。

そして、敢えて、「コンピュータの能力向上を予見して活用し続け、アメリカでは「世界で最もスパコンを使う男」と言われていたという。

この気候モデルは、当時は研究されていた分野も、大気の部分と海洋の部分が個別に研究されていた。しかし現実の地球表面では、混然として天候現象は起こるわけだからと、現実を重視し、真鍋博士はこれらを統合して、より現実的な高度なシミュレーションモデルとした。

現在地球上では、最も深刻な問題として、温暖化対策が国際的に進められている。そして、一九九二年の地球温暖化枠組み条約締結後から以降、国際的な温暖化現象の適応と対策の両面で、二〇五〇年カーボンフリーを国際的な目標としている。また、今までの地球温暖化の現実の経緯は、真鍋博士の気候モデル通りに進んでおるので、この気候モデルが、現地球上に人類が住み続けるためには人類は、どうすればよいかを予見してゆく根拠ともなるはずである。

しかも、コンピュータは、今後も能力増加が期待され、地球表面のメッシュ増加も含めて、より適切なデータを供給してくれそうであるから、関連研究者の予見力も更に強化されるはずである。